

(1) 第2回ワークショップ

日 時：平成20年8月29日(金)

場 所：小平・村山・大和衛生組合3階 大会議室

1. テーマ

2グループに分かれて、以下のテーマについてワークショップ形式で議論を行った。

Aグループ	「重点課題1」及び「重点課題2」の解決方針について
テーマ1	循環型社会の構築に向けた社会のあり方について [重点課題1]
テーマ2	3Rに即した事業者の責任について [重点課題2]
Bグループ	「重点課題3」の解決方針について
テーマ1	情報提供・環境学習等について
テーマ2	ライフスタイル・減量施策などについて

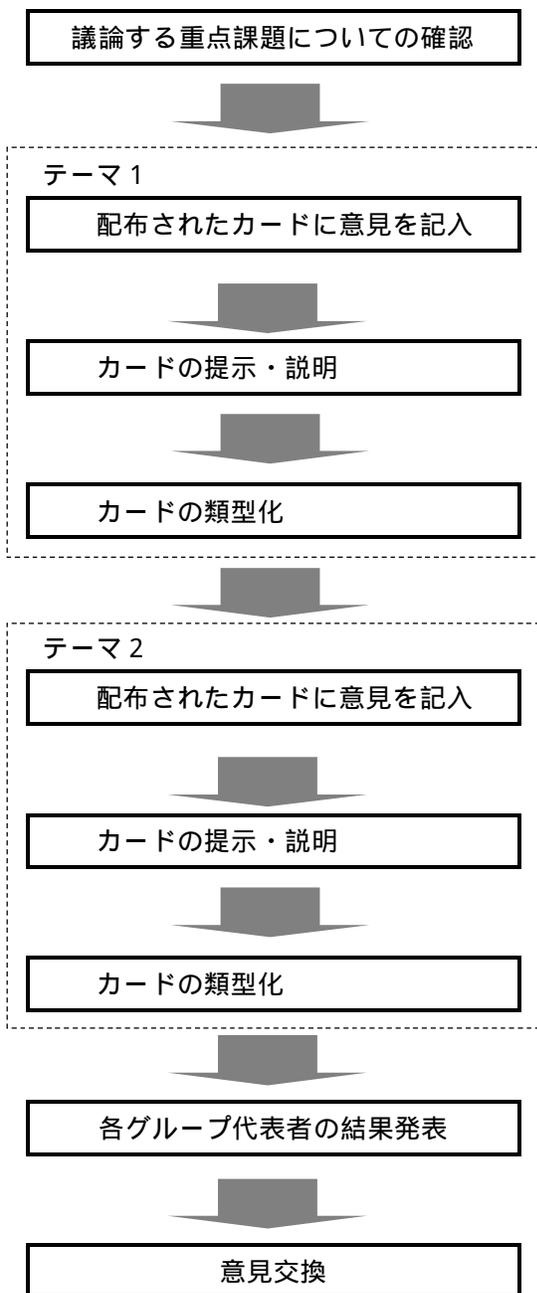
2. グループ

委員の希望を踏まえて、名簿順に振り分けた以下のグループ構成で議論を行った。

		Aグループ	Bグループ
担当課題		重点課題1、2	重点課題3
メンバー	(リーダー)	寺嶋座長	後藤副座長
		小林委員	遠藤委員
		中村委員	白水委員
		原田委員	林委員
		鈴木委員	近江委員
		平本委員	霜出委員

3. ワークショップの流れ

以下のフローに従い、検討を行った。



議論の様子



A グループ



B グループ

発表の様子



A グループ



A グループ

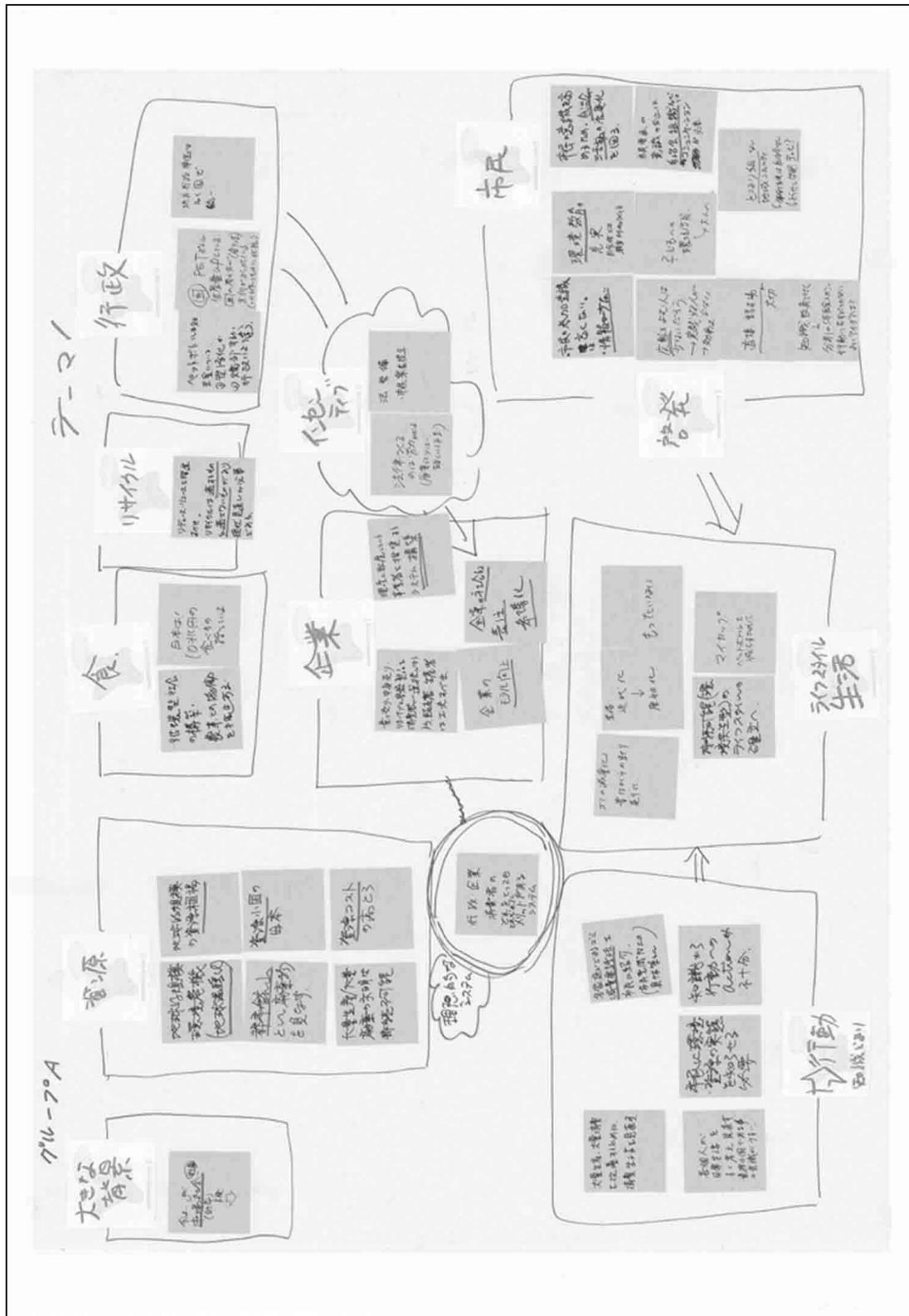


B グループ

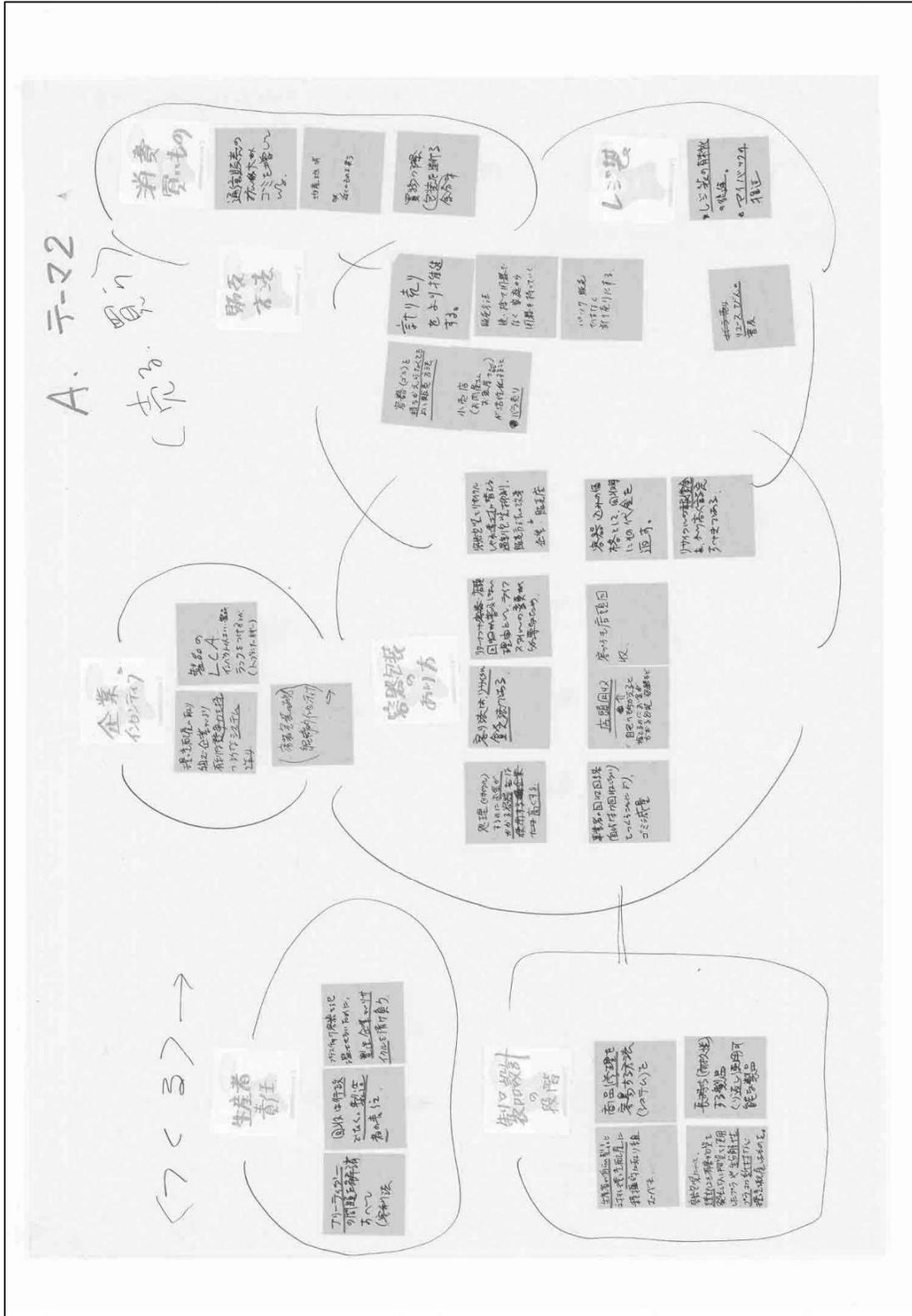
4. 各グループの検討結果

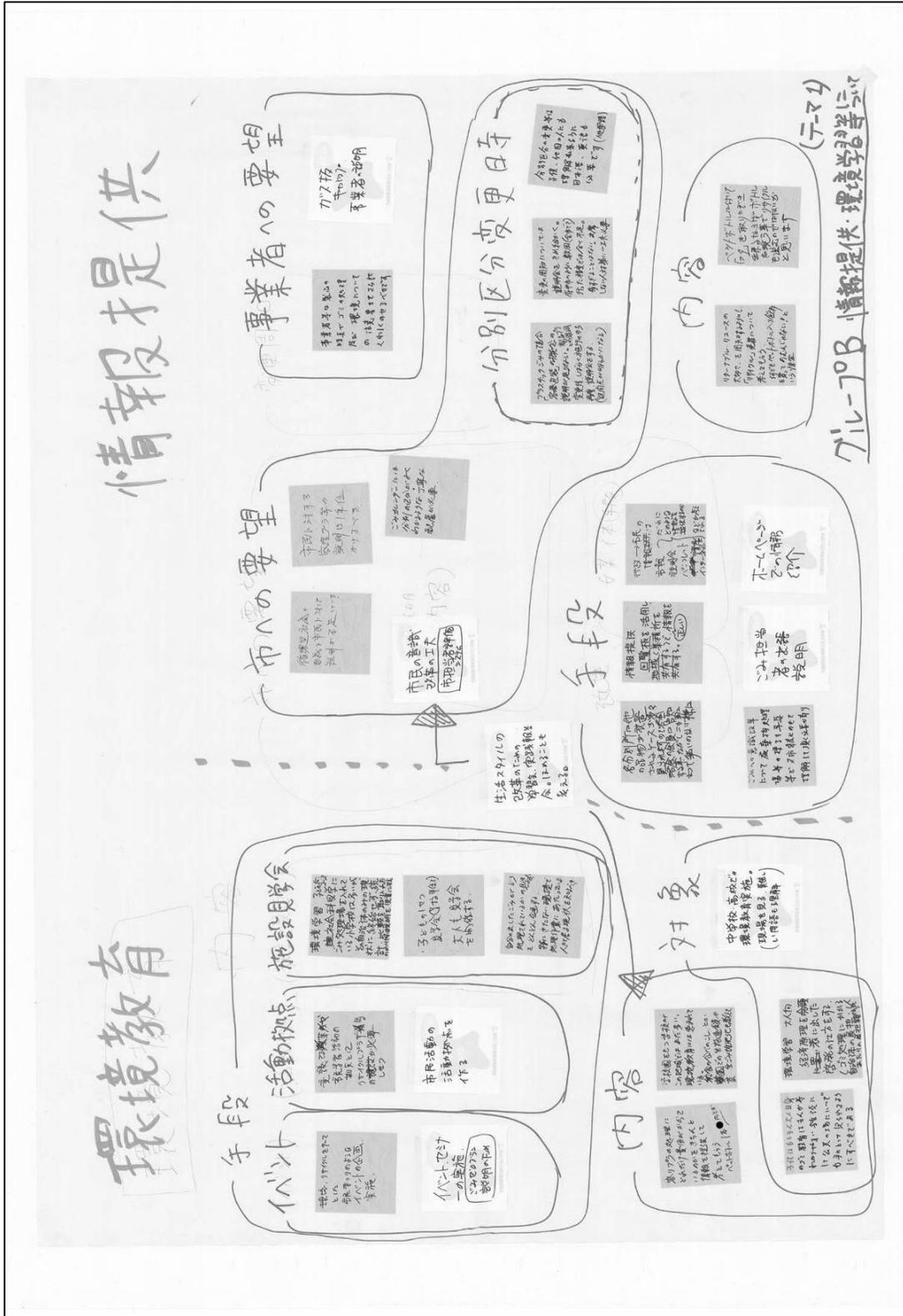
[Aグループ]

テーマ1 循環型社会の構築に向けた社会のあり方について [重点課題1]



テーマ2 3Rに即した事業者の責任について [重点課題2]



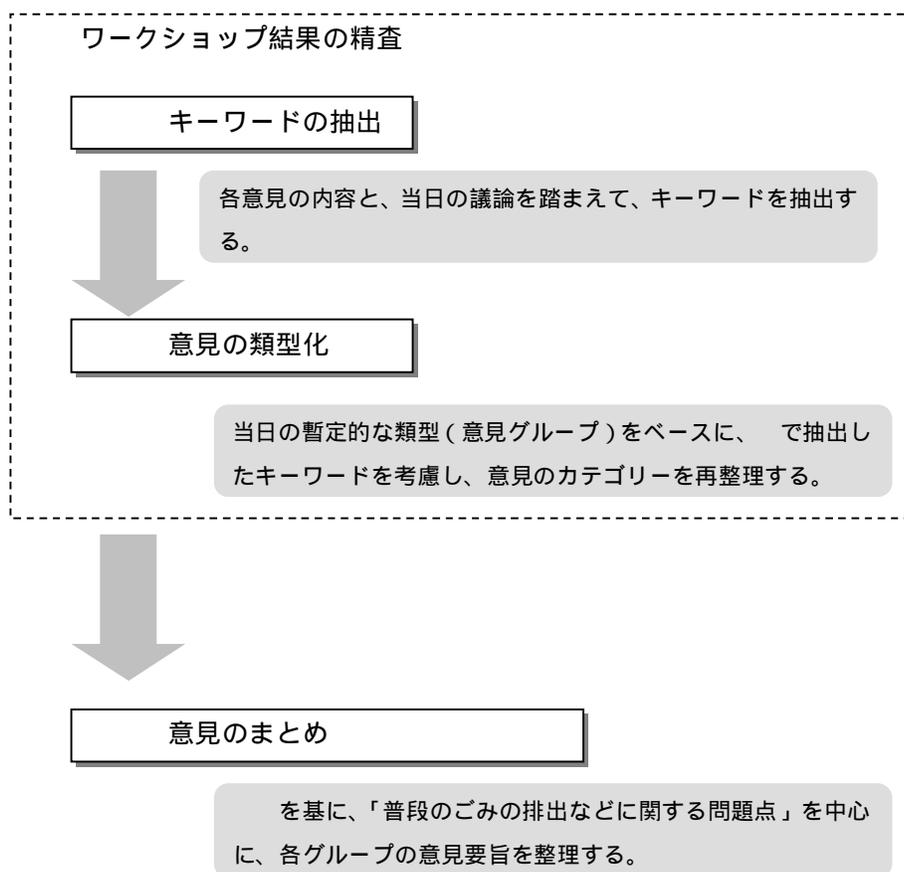


5. 各グループの意見解析

ワークショップにおいて、各委員から提示された意見内容と、当日の口頭での説明内容を再整理し、各意見のキーワードを抽出した()。さらに、それらを踏まえて、複数のカテゴリーに分類()し、それぞれの意見の関係性を明らかにする()とともに、得られた意見構造をベースに各グループの意見要旨をまとめた()。

これらの解析結果を次頁以降に示す。

ワークショップ結果の解析フロー



A グループ

テーマ1 循環型社会の構築に向けた社会のあり方について

[重点課題 1]

キーワードの抽出

カードの内容	コメント	キーワード	カテゴリー
今は市場社会中心。利益・効率主義。	利益主義、効率主義を前提とした市場社会からの脱却が必要である。	利益主義の脱却	社会・経済の目指すべき方向性
地球規模、環境危機（地球温暖化）	地球温暖化を始めとする地球規模での環境危機を解決することが必要である。	地球温暖化防止	資源を取巻く背景と目指すべき方向性
地球規模の資源枯渇	地球規模での資源の枯渇を解決するための資源循環が必要である。	資源枯渇	
資源コストの高騰	原油に代表されるような資源の高騰価格の高騰が近年起こっており、資源循環の重要なファクターの一つである。	資源高騰	
資源小国の日本	資源小国としての日本のあり方として、循環型社会の構築が必要である。	資源小国	
大量生産/大量廃棄の文明は持続不可能	大量生産・大量廃棄からの脱却が、持続可能な社会の構築に必要である。	大量生産・大量廃棄からの脱却	
都市鉱山として廃棄物を見直す	特に資源を大量に消費する都市の廃棄物から有用な資源を抽出することが重要	ごみからの資源抽出	
行政・企業・消費者のどれをとってもそれぞれにメリットがあるシステム	行政・企業・消費者の各主体にメリットのある、循環型社会システムの構築が、最も望まれる理想的な社会システムである。	共益なシステム	望ましい社会システム
リデュース・リユースを推進すべき。リサイクルは適するものと適さないものがあり、現状の見直しが必要である。	品目によって、リサイクルに適するものと適さないものがあり、リデュース・リユースを推進することが前提である。	最適な3Rの選択	
環境に配慮している事業者を推奨するシステム構築	環境に配慮している事業者を評価し、それを推奨するシステムを構築することができれば、事業者のインセンティブの創出に繋がるのではないかと。	環境配慮に関する評価システム	
環境型社会の構築、農業との協働を推進する	農業・食と連携した資源循環が必要であり、生産、消費、食品廃棄物の再利用などを含めた地産地消型の循環型の構築が必要である。	農業との連携	食に関する資源循環
日本は10兆円の食べ物を捨てている	食べ物を作る過程や調理の過程などでの廃棄を極力減らすとともに、食品系廃棄物のリサイクルをもっと推進するべきである。	食の3R	
法整備に関して、市民案を提示してはどうか。	容器包装リサイクル法などに関連して、市民の意見を集約して、法案として市民案を作成・提示するのが良いのではないかと。	法案提示	さらなる市民参画
法律つくるのは労力かかる（原案づくりは難しい作業）	法制度に民意を反映させることが難しい側面として、法案作成が難しい作業であるという点がある。簡易的なやり方があれば良いのではないかと。	法案提示	
企業のモラル向上	企業モラルの向上が、市場社会でのごみ問題の解決に繋がるのではないかと。	企業モラルの向上	事業者に求める役割
企業の社会的責任希薄化	企業の社会的責任の希薄化が、諸問題の根本にあり、それを是正する必要がある。	CSRの追求	
量り売り・中身売り・リターナブル容器製品を消費者が選択できるように、販売者・生産者は工夫すべき	量り売り、中身売り、リターナブル容器の製造・使用など、消費者が環境に配慮した消費行動を選択・実践できるように販売・商品設計を企業が行うべきである。	環境配慮の選択機会の提供	
ごみの減量化。昔ながらの量り売りに。	量り売りが、ごみ減量化に効果的な手法の一つだと考える。	量り売り	
大量生産・大量消費を改善するために、消費生活を見直す	大量生産の土壌である大量消費型の消費生活を一人ひとりが見直すことが必要である。	消費生活の見直し	消費者の果たすべき役割
各個人が、日常生活を良く考え見直す。資源小国であること意識が薄い	資源小国であることを、日常生活の中で意識し、ライフスタイルを見直すことが必要である。	消費生活の見直し	
生活の近代化 原始化	ごみを出さない従来の生活様式に回帰することが必要である。	生活の原始化	
もったいない	ものを長く大切に使う「もったいない」という感覚が必要である。	もったいない	
持続可能（環境共生型）のライフスタイルの確立へ	持続可能な社会のあり方として、環境共生型のライフスタイルを確立することが必要ではないかと。	環境共生	
マイカップ。ペットボトルを減らすために。	製造・排出量が増えているペットボトルを減らすために、マイカップが有効だと考える。	マイカップの使用	
市民の意識を高めるため、自治会活動の活性化を図る	市民の意識や市民参画の意識を高めるためには、人と人とのコミュニケーションが重要であり、自治会活動の活性化がその有効な手段だと考える。	自治会活動の活性化	コミュニティに期待する役割
市民参画や意識の向上は自治会組織などのコミュニケーションが必要		自治会活動の活性化	
となり組・地域コミュニティーない。集合住宅は自治会なし どうやって啓発。テレビ？	集合住宅など、自治会の無い地域、地域コミュニティーの希薄な地域では、自治会に代る啓発手段が必要であり、マスメディアもその一つの手段だと考える。	地域コミュニティーの代替	
子どもへの環境学習が、（家庭や地域を通じて）大人へ	子どもたちへ環境学習を行うことで、家庭や地域のつながりの中で大人たちへ波及させることが出来るのではないかと。	環境教育の波及	
市民に、環境・資源の実態を知らせる必要	市民のライフスタイルの変革のためには、環境や資源の実態に関する情報を提供する必要がある。	実態に関する情報提供	自治体に求める役割
各家庭で出来る、ごみ減量実践法を市民に紹介（市民意識向上の具体策として）	ごみの減量を指すのであれば、具体的な実践方法について、情報提供が必要である。	具体的実践方法に関する情報提供	
知識から行動へのアクションが不十分	ごみを取巻く知識に関して、徐々に広まりつつあるが、それを実践していくことが必要である。	行動へのアクション	
市民の参加意識は高くない。情報が少ない	現状として、市民の参加意識は決して高くはないと思われる。その要因として、情報の不足があげられる。	参加意識向上のための啓発	
広報を読む人は少ないと思う。実践する人が少なく、効果についても疑問	ごみに関する情報提供の多くが、広報誌を媒体とするケースが多いが、広報誌自体を読む人が少なく、実践する人も少ないのが実情であり、広報誌による情報提供の効果について疑問があり、違う媒体での情報提供が必要なのではないかと。	情報提供の媒体	
直接、話す場が大切	ごみに関する情報提供の手段として、直接話す場が大切なものであり、双方向のコミュニケーションによって知識を深めることが出来ることも、市民意見を反映することや、実感を把握することにも繋がる。	情報提供の媒体	
知識教育だけでは行動に結びつかない。分別の体験とが良いアイデアはないか。	知識教育だけでは、3Rの実践に結びつかない。分別の体験など、体験的な行動に結びつく環境教育が必要なのではないかと。	体験的環境教育	
ペットボトルの処理について、資源化か 焼却するか、行政により違う	ペットボトルなどの処理方法が、行政間で異なるので、処理方法を統一する必要があるのではないかと。	行政間の相違	
地方行政単位ではなく国で統一	ごみや資源の処理方法について、自治体単位ではなく、国レベルで統一していくことが必要なのではないかと。	行政間の相違	
ペットボトルの生産量がアップしている。国の考え方（容り法）の方向が間違っている。（いくら作っても良い状態）	ペットボトルの生産量が年々増えており、生産量・排出量を抑制する法制度が必要なのではないかと。	国の法制度	
環境教育の充実。国全体での教育カリキュラムを。	環境教育のより一層の充実が必要であり、国全体での教育カリキュラムが必要ではないかと。	環境教育	

意見の類型化

社会・経済の
目指すべき
方向性

今は市場社会
中心。利益・
効率主義。

資源を取巻く背景と
目指すべき方向性

地球的規模
環境危機（地
球温暖化）

都市鉱山とし
て廃棄物を見
なす

大量生産/大
量廃棄の文明
は持続不可能

地球的規模の
資源枯渇

資源小国の日
本

資源コストの
高騰

望ましい社会システム

行政・企業・
消費者のどれ
をとってもそ
れぞれにメリ
ットがあるシ
ステム

リデュース・
リユースを推
進すべき。リ
サイクルは適
さないものが
あり、現状の
見直しが必要
である。

環境に配慮し
ている事業者
を推奨するシ
ステム構築

食に関する資源循環

環境型社会の
構築、農業と
の協働を推進
する

日本は10兆
円の食べ物を
捨てている

さらなる市民参画

法整備に関し
て、市民案を
提示してはど
うか。

法律つくるの
は労力かかる
（原案づくり
は難しい作
業）

事業者を求める役割

量り売り・中
身売り・リタ
ーナブル容器
製品を消費者
が選択できる
よう、販売
者・生産者は
工夫すべき

ごみの減量
化。昔ながら
の量り売り
に。

企業の社会的
責任希薄化

企業のモラル
向上

コミュニティに期待する役割

となり組・地
域コミュニテ
ィない。集
合住宅は自
治会なし。ど
うやって啓
発。テレビ？

子どもへの環
境学習が、（家
庭や地域を通
じて）大人へ

市民の意識を
高めるため、
自治会活動の
活発化を図る

市民参画や意
識の向上は自
治会組織など
のコミュニケ
ーションが必
要

自治体に求める役割

各家庭で出来
る、ごみ減量
実践法を市民
に紹介（市民
意識向上の具
体策として）

市民に、環
境・資源の実
態を知らせる
必要

広報を読む人
は少ないと思
う。実践する
人が少なく、
効果について
も疑問

知識から行動
へのアクション
が不十分

市民の参加意
識は高くない
。情報が少な
い

直接、話す場
が大切

知識教育だけ
では行動に結
びつかない。
分別の体験と
か良いアイデ
ィアはないか。

消費者の果たすべき役割

大量生産・大
量消費を改善
するために、
消費生活を見
直す

マイカップ。
ペットボトル
を減らすため
に。

生活の近代化
原始化

もったいない

持続可能（環
境共生型）の
ライフスタイル
の確立へ

各個人が、日
常生活を良く
考え見直す。
資源小国であ
ることの意識
が薄い

国に求める行動

環境教育の充
実。国全体で
の教育カリキュ
ラムを。

ペットボトルの生産量がアップし
ている。国の考え方（容り法）の
方向が間違っている。（いくら作っ
ても良い状態）

地方行政単位で
はなく国で統一

ペットボトルの処理について、
資源化か 焼却するか、行政
により違う

意見のまとめ

意見の骨子



(1) 循環型社会の構築に向けた方向性

利益主義、効率主義を前提とした市場社会からの脱却と、地球温暖化を始めとする地球的規模での環境危機や資源の枯渇を解決するための資源循環が必要である。また、原油に代表されるような資源の高騰価格の高騰が近年起こっており、資源循環の重要なファクターの一つであるとともに、資源小国である日本のあり方としての循環型社会の構築が必要である。

そのような背景から、大量生産・大量廃棄からの脱却が、持続可能な社会の構築、特に資源を大量に消費する都市の廃棄物から有用な資源を循環させることが今後の目指すべき方向性だと思われる。

(2) 目指すべきシステム

望ましい社会システム

行政・企業・消費者の各主体にメリットのある、循環型社会システムの構築が、最も望まれる理想的な社会システムである。また、品目によって、リサイクルに適するものと適さないものがあり、リデュース・リユースを推進することが前提である。

さらに、環境に配慮している事業者を評価し、それを推奨するシステムを構築することができれば、事業者のインセンティブの創出に繋がるのではないかと。

食に関する資源循環

農業や食と連携した資源循環が必要であり、生産、消費、食品廃棄物の再利用など含めた地産地消型の循環圏の構築が必要である。また、食べ物を作る過程や調理の過程などでの廃棄を極力減らすとともに、食品系廃棄物のリサイクルをもっと推進するべきである。

さらなる市民参画

容器包装リサイクル法などに関連して、市民の意見を集約して、法案として市民案を作成・提示するのが良いのではないかと。ただし、法制度に民意を反映させることが難しい側面として、法案作成が難しい作業であるという点があるので、簡易的なやり方であれば良いのではないかと。

(3) 各主体の役割

事業者

企業モラルの向上が、市場社会でのごみ問題の解決に繋がるとともに、企業の社会的責任の希薄化が、諸問題の根本にあり、それを是正する必要がある。

量り売り、中身売り、リターナブル容器の製造・使用など、消費者が環境に配慮した消費行動を選択・実践できるような販売・商品設計を企業が行うべきである。

市民

大量生産の土壌である大量消費型の消費生活を一人ひとりが見直し、資源小国であることを、日常生活の中で意識し、ライフスタイルを考え直し、ごみを出さない従来の生活様式に回歸し、ものを長く大切に使う「もったいない」という感覚を持つことにより、持続可能な社会を目指した、環境共生型のライフスタイルを確立することが必要なのではないか。

また、製造・排出量が増えているペットボトルを減らすためにも、マイカップが有効だと考える。

コミュニティ

市民の意識や市民参画の意識を高めるためには、人と人とのコミュニケーションが重要であり、自治会活動の活発化がその有効な手段だと考える。

ただし、集合住宅など、自治会の無い地域、地域コミュニティの希薄な地域では、自治会に代る啓発手段が必要であり、マスメディアもその一つの手段だと考える。

さらに、子どもたちへ環境学習を行うことで、家庭や地域のつながりの中で大人たちへ波及させることが出来るのではないか。

自治体

ごみを取巻く知識に関しては徐々に広まりつつあるが、それを実践していくことが必要であるが、現状として、市民の参加意識は決して高くないと思われる。その要因として、情報の不足があげられる。

そのため、市民のライフスタイルを変革するためには、環境や資源の実態に関する情報や、ごみの減量を目指した具体的な実践方法について、情報提供する必要がある。

また、ごみに関する情報提供の多くが、広報誌を媒体とするケースが多いが、広報誌自体を読む人が少なく、実践する人も少ないのが実情であり、広報誌による情報提供の効果について疑問があり、違う媒体での情報提供が必要なのではないか。特に、ごみに関する情報提供の手段として、「直接話す場」が大切であり、双方向のコミュニケーションによって知識を深めるとともに、市民意見を反映することや、実態を把握することにも繋がる。

なお、知識教育だけでは、3Rの実践に結びつかないので、分別の体験など、体験的な行動に結びつく環境教育が必要なのではないか。

国に求める行動

ペットボトルを始めとするごみや資源の処理方法について、自治体によって異なるので、自治体単位ではなく、国レベルで統一していくことが必要なのではないか。

また、ペットボトルの生産量が年々増えており、生産量・排出量を抑制する法制度が必要なのではないか。

さらに、環境教育のより一層の充実が必要であり、国全体での教育カリキュラムが必要ではないか。

キーワードの抽出
 テーマ2 3R に即した事業者の責任について [重点課題 2]

カードの内容	コメント	キーワード	カテゴリー
レジ袋の有料化の促進、マイバッグの推進	事業者側でレジ袋を有料化することで、マイバッグの促進が図られるのではないかな。	レジ袋有料化	販売方法の変革
量り売りを、より推進する		量り売り	
販売方法、使い捨て容器でなく、家庭から容器を持っていく	小売業者が量り売りなどの販売方法を推進することで、使い捨て容器を削減することができるのではないかな。	量り売り	
容器（ごみ）を持ち帰らなくても良い販売方法		量り売り	
バック販売ではなく、量り売りにする	バック販売ではなく量り売りにすることで、容器包装の削減はもちろんのこと、無駄な消費を削減することができるのではないかな。	量り売り	
リユースびんの普及	リユースびんをもっと普及させるべきではないかな。	リユースびん	
小売店（お肉屋さん、お魚屋さんなど）が活性化することで、バラ売りなどを促進できる。	小売店（専門店）を活性化させることで、バラ売りなどの従来の販売形態を回復させることが出来るのではないかな。	専売店の活性化	
容器包装をリサイクルしやすい素材に替える。過剰包装抑制。販売方法の改善 企業・販売店	容器包装を商品設計の段階でリサイクルしやすいものにする必要がある。	リサイクルしやすい容器包装設計	望ましい製品設計
容器包装について 焼却しても有害物質を発生しない物質を使用したプラや、生分解性プラ、又は紙材など環境配慮したものを。	焼却しても有害物質を発生しない素材や生分解性プラスチックの使用や紙材の活用など、処理時に環境負荷が小さい容器包装の設計が必要である。	環境負荷の少ない容器包装設計	
商品修理を容易する方法（システム）を。	長期使用できる製品設計や容易に修理ができるシステムを構築する必要がある。	商品修理を容易にする社会システム	
生産者が、自らの製品に対する環境配慮に積極的に取り組むべき	生産者が自らの製品に対して、環境配慮を積極的に取り組む必要がある。	環境配慮した製品設計	
長持ち（耐久性）する製品、繰り返し使用可能な製品。	耐久性のある製品や繰り返し使用することが可能な製品を製造するべきである。	製品の長寿命化	
事業者の回収回路（自治体は回収しない）をつくることにより、ごみ減量。	事業者責任を求める方法の一つとして、店頭回収などの事業者側の回収ルート構築することがあられ、それによって事業者側のごみ減量を目指した事業活動を促すことができる。	事業者回収ルートの構築	事業者回収ルートの創出
店頭回収を促進し、自宅へ持ち帰ると、包装・容器などは捨てるのにお金がかかる仕組みが必要	包装・容器などを持ち帰るとお金がかかる仕組みとすることで、店頭回収を促進するのが良いのではないかな。	消費者への経済的インセンティブ	
容プラも店頭回収	店頭回収の品目にプラスチック製容器包装を加えるよう、働きかける必要がある。	店頭回収品目の拡充	
容器込みの価格として回収時にその代金を返す	商品価格に容器包装代金を上乗せし、回収時に返すデポジット制度のような仕組みがあれば、容器包装の分別や、店頭回収の促進につながるのではないかな。	デポジット制度	
環境配慮に取り組む企業が、より有利な競争力を持つようなシステム作り	市場経済の中で、環境配慮に取り組む企業が競争力を持つようなシステム作りが必要ではないかな。	環境配慮に対する評価システム	インセンティブの創出
製品のLCA、インパクト小さい製品、ランクをつけるとか。（トップランナー方式）	製品のLCAを行い、環境負荷の大小でランクを付けるなどの制度が必要ではないかな。	環境配慮に対する評価システム	
望ましい容器包装の在り方に移行するためには、経済的なインセンティブが働く仕組みが必要	リユース容器、リターンナブル容器の使用や量り売りなどの販売方法は、現在の市場経済の枠組みでは促進することが難しく、経済的なインセンティブが働く仕組みづくりが必要なのではないかな。	経済的インセンティブ（事業者）	
処理（リサイクル）するのにお金がかかる容器は高くする	望ましい容器包装のあり方に移行させるための具体的な手段として、ワンウェイ容器の価格を高く設定することで、リユース容器等に消費を促す仕組みが考えられる。	経済的インセンティブ（事業者）	
リサイクルの報償金を、より高く設定すべきである	分別・リサイクルを促進するためには、実施を促進させるための経済的インセンティブが必要である。	経済的インセンティブ（事業者）	
通信販売の拡大がごみを増やしている	インターネットなどの通信販売での商品購入により、梱包に係るごみが増大しているのではないかな。	在宅購入による梱包増加の抑制	消費者の果たすべき役割
地産地消（例 近くのものを買う）	生産・消費・廃棄に至るものの流れをコンパクトにして、地産地消を促進することで、容器包装などの無駄な物質消費を回避できるのではないかな。	地産地消	
買い物の際、余分な包装を断る	買物の際に余分な包装を断ることで、容器包装の削減が可能である。	過剰包装	
リターンナブル容器、店頭回収が普及しない理由として、ライフスタイルの変更が必要な点がある	消費者が利便性を求めており、リターンナブル容器や店頭回収を普及させるためには、消費者側がライフスタイルを変革する必要がある。	ライフスタイルの変革	
フリーライダーの問題を解消すべし。（客利法）	特定事業者であっても再商品化義務を果たしていない、いわゆるフリーライダーの問題を解決する必要がある。	容器包装リサイクル法の見直し	国に求める行動
回収は行政でなく製造者の責任	容器包装の回収は、行政ではなく生産者責任とするべきである。	容器包装リサイクル法の見直し	
プラスチック容器を氾濫させないために製造企業がリサイクルを請け負う	プラスチック製容器包装の氾濫を避けるため、製造企業の処理・リサイクルの責任範囲を拡大するべきである。	容器包装リサイクル法の見直し	
容リ法はリサイクル貧乏である	現行の容器包装リサイクル法は、社会的コストを考慮しておらず、リサイクル貧乏法とも言うべき内容である。	容器包装リサイクル法の見直し	

意見の類型化

販売方法の変革

レジ袋の有料化の促進、マイバッグの推進

量り売りを、より推進する

リユースびんの普及

容器（ごみ）を持ち帰らなくても良い販売方法

小売店（お肉屋さん、お魚屋さんなど）が活性化することで、バラ売りなどを推進できる。

販売方法、使い捨て容器でなく、家庭から容器を持ってい

パック販売ではなく、量り売りにする

事業者回収ルートの創出

容器込みの価格として回収時にその代金を返す

容プラも店頭回収

店頭回収を促進し、自宅へ持ち帰ると、包装・容器などは捨てるのにお金がかかる仕組みが必要

事業者の回収回路（自治体は回収しない）をつくることにより、ごみ減量。

国に求める行動

フリーライダーの問題を解消すべし。（容リ法）

プラスチック容器を氾濫させないために製造企業がリサイクルを請け負う

回収は行政でなく製造者の責任

容リ法はリサイクル貧乏法である

望ましい製品設計

容器包装について 焼却しても有害物質を発生しない物質を使用したプラや、生分解性プラ、又は紙材など環境配慮したものを。

商品修理を容易する方法（システム）を。

長持ち（耐久性）する製品、繰り返し使用可能な製品。

容器包装をリサイクルしやすい素材に替える。過剰包装抑制。販売方法の改善 企業・販売店

生産者が、自らの製品に対する環境配慮に積極的に取り組むべき

インセンティブの創出

製品のLCA。インパクト小さい製品、ランクをつけるとか。（トップランナー方式）

処理（リサイクル）するのにお金がかかる容器は高くする

環境配慮に取り組む企業が、より有利な競争力を持つようなシステム作り

望ましい容器包装の在り方ためには、経済的なインセンティブが働く仕組みが必要

リサイクルの報償金を、より高く設定すべきである

消費者の果たすべき役割

リターナブル容器、店頭回収が普及しない理由として、ライフスタイルの変更が必要な点がある

通信販売の拡大がごみを増やしている

地産地消（例 近くのものを 買う）

買い物の際、余分な包装を断る

意見のまとめ
意見の骨子

(1) 事業活動のあるべき姿

販売方法の
変革

レジ袋有料化

量り売り

リユースびん

専売店の活性化

望ましい
製品設計

リサイクルしやすい
容器包装設計

環境負荷の少ない
容器包装設計

商品修理を容易に
する社会システム

環境配慮した
製品設計

製品の長寿命化

(2) 3R に即した事業活動を促進するためのシステム

事業者回収
ルートの創出

事業者回収
ルートの構築

消費者への経済的
インセンティブ

店頭回収品目
の拡充

デポジット制度

インセンティブ
の創出

環境配慮に対す
る評価システム

経済的
インセンティブ

(3) その他の主体の役割

市民

在宅購入による
梱包増加の抑制

地産地消

過剰包装

ライフスタイルの
変革

国

容器包装リサイ
クル法の見直し

(1) 事業活動のあるべき姿

販売方法の変革

事業者側でレジ袋を有料化することで、マイバッグの促進が図られるのではないかと。小売業者が量り売りなどの販売方法を推進することで、使い捨て容器を削減することができるのと同時に、無駄な消費を削減することができるのではないかと。また、リユースびんをもっと普及させるべきではないかと。

そのためには、小売店（専門店）を活性化させることで、バラ売りなどの従来の販売形態を回帰させることが出来るのではないかと。

望ましい製品設計

容器包装を商品設計の段階でリサイクルしやすいものにするのと同時に、焼却しても有害物質を発生しない素材や生分解性プラスチックの使用や紙材の活用など、処理時に環境負荷が小さい容器包装の設計が必要である。

また、耐久性のある製品や繰り返し使用することが可能な製品設計や容易に修理ができるシステムを構築する必要である。

そのためにも、生産者が自らの製品に対して、環境配慮を積極的に取組むことが必要である。

(2) 3R に即した事業活動を促進するためのシステム

事業者回収ルートの創出

事業者責任を求める方法の一つとして、店頭回収などの事業者側の回収ルートを構築することがあり、それによって事業者側のごみ減量を目指した事業活動を促すことができる。

また、包装・容器などを持ち帰るとお金がかかる仕組みや商品価格に容器包装代金を上乗せし、回収時に返金するデポジット制度のような仕組みがあれば、容器包装の分別や、店頭回収の促進に繋がるのではないか。

さらに、店頭回収の品目にプラスチック製容器包装を加えるよう、働きかけることが必要である。

インセンティブの創出

市場経済の中で、環境配慮に取組む企業が競争力を持つようなシステム作りが必要であり、例えば、製品の LCA を行い、環境負荷の大小でランクを付けるなどの制度が有効と思われる。

また、リユース容器、リターナブル容器の使用や量り売りなどの販売方法は、現在の市場経済の枠組みでは促進することが難しく、経済的なインセンティブが働く仕組みづくりが必要であり、例えば、具体的な手段として、ワンウェイ容器の価格を高く設定することで、リユース容器等に消費を促す仕組みが考えられる。そのような、実施を促進させるための経済的インセンティブが、分別・リサイクルを促進するために必要である。

(3) その他の主体の役割

市民

消費者が利便性を求めており、買物の際に余分な包装を断ることや、リターナブル容器や店頭回収を普及させるためにも、消費者側がライフスタイルを変革する必要がある。

また、インターネットなどの通信販売での商品購入により、梱包に係るごみが増大していることが懸念される。生産・消費・廃棄に至るものの流れをコンパクトにして、地産地消を促進することで、容器包装などの無駄な物質消費を回避できるのではないか。

国

容器包装の回収は、行政ではなく生産者責任とするべきであり、特に、プラスチック製容器包装の氾濫を避けるためも、製造企業の処理・リサイクルの責任範囲を拡大するべきである。また、現行の容器包装リサイクル法は、社会的コストを考慮しておらず、リサイクル貧乏法とでも言うべき内容であり、容器包装リサイクル法の見直しが必要なのではないか。

さらに、特定事業者であっても再商品化義務を果たしていない、いわゆるフリーライダーの問題を解決する必要がある。

B グループ

テーマ1 情報提供・環境学習等について [重点課題3]

キーワードの抽出

カードの内容	コメント	キーワード	カテゴリ
リターンブル・リユースの大切さを周知するようにし、「リサイクル」免罪について考えてもらう。何でもペットボトル入り飲料を買って飲むんじゃない!という情宣。	3R優先順位について市民に周知徹底すべき。ペットボトルはリサイクルできるからいくら使用してもよい、などという概念は捨てなければならない。	3R優先順位	情報提供すべき内容
ペットボトルについて「フタ」を取りのぞき、出切るならばボトルを洗うことでリサイクルも進むのではないかと思っています。	ペットボトルのリサイクルを進めるためには、市民がフタを分けること、ボトルを洗うことを覚えなければならない。	ペットボトル	
各分別所に、他の品物が放置されるケースが多々見られますので、各自治会の会員に告知すること。ただし、このことによって争いのないように。	分別の徹底等について、自治会を利用するものよいのではないか。	自治会	情報提供の有効な方法
回覧板を活用し、地域(集積所を共有する)で、正しい情報を共有する。	回覧板を利用して情報提供を行うことによって、同じ集積所を利用する市民が同じ情報を得ることができる。	回覧板	
行政 市民の情報提供は誰にどのような情報を提供するのかが。市報・説明会・パンフレット・インターネットなどが考えられる。	市から市民に向けた情報提供の媒体として、市報・説明会・ホームページなどがあげられる。	市報・説明会・ホームページ	
ごみへの意識改革について廃棄物処理場等の様子を写真等で、また、市報に載せて理解していただく必要があります。	写真等を入れた分かりやすい形とし、市報で情報提供を行うべきである。	市報	
ごみ担当者の出張説明	ごみ担当者が各家庭を回って、分別方法やごみ減量化に向けた取組みについての説明を行うべきである。	出張説明	
ホームページでの紹介	ホームページで、市民が出すごみの行方や守るべきマナー等に関する情報を提供してほしい。	ホームページ	
ガス抜きキャップ、事業者の説明	ガス抜きキャップを使ってスプレー缶に穴を開けられることを知らなかった。事業者側からもっと情報を与えて欲しい。	製品への表示	事業者に求める役割
事業者等は、製品時点でごみの処理及び環境についての注意書きを更に詳しく載せるべきです。	製品を提供する事業者が、製品に排出方法等の情報を記載するべきである。	製品への表示	
市民に対する容器プラ等の説明は、1年位かけるべき。	分別区分が大きく変更する際は、市民に対して前から説明を行うべきであり、その期間として1年は必要である。	分別方法の説明	自治体に求める役割
ごみカレンダーには分別の区分がよく分かるような丁寧な配慮が必要	市民はごみカレンダーを見て分別を行うので、わかりやすいものとなるよう配慮してほしい。	ごみカレンダー	
循環型社会の形成を。市民に対して説明が不足している	市は市民に対して、循環型社会形成のためにどうしていくのかの説明をもっとしてほしい。	方向性の説明	
市民の意識改革の工夫(市担当者評価システム)	市民の意識改革を進めるために、市担当者評価システム等を作り、市担当者にインセンティブを与えるのはどうか。	市担当者へのインセンティブ付与	
プラスチックごみの場合「容器包装」の概念の説明が足りない。製品プラとの混同。変更後、しばらく施行ののち、再度、説明会をする。(疑問点が明らかになる)	どれが容器包装プラスチックに該当するのかがついて、市民が理解していない。分別変更の際は、施行後も説明会を開いてほしい。	説明会	
変更の周知については説明会をきめ細かく。府中市のように数回(全市で?)行った程度では全く不足。多すぎることはない。出席しない人対策に工夫必用。	分別変更時の説明会の回数を増やしてほしい。また、出席できない人に対して、何らかの対応が必要である。	説明会	
分別区分の変更等は、子ども、他国の人にも理解できるように日本語・英語も必要です(他国語)	ごみは市民全員が排出するものであり、英語等外国語での説明も必要である。	外国人向け	
容器プラの処理にどれだけ費用がかかっているのかを、きちんと情報を提供して考えてもらう。ペットボトル1本 円とか。	容器プラのリサイクル費用について市民に情報提供することで、リサイクルについて一度考えてもらうことが必要なのではないか。	リサイクル費用	環境教育に必要な内容
学校園を持つ学校が、この地域ではまだ多い。環境教育には恵まれている。給食の食べ残しとか菜園での生物連鎖や生ごみ堆肥化も教えて。	地域内に多く存在する学校園を利用し、生態系概念を含めた生ごみの資源としての流れを教育するのが望ましい。	生ごみリサイクル	
子どもはもちろん、大人自身のごみ教育は、まんが等わかりやすい雑誌にして公共の場において手にとって見られるようにすべきである。	大人を対象とした教育についても、わかりやすい資料を準備する。また、いつでも手にとって見られる場所に置いておくべきである。	大人向け	
環境学習、大人向け。経済原理を表に出した啓発の仕方をする。(ごみ処理にかかる自治体の負担、一人あたりの負担額)	大人に対しては、ごみ処理費用等の経済的な情報を提供し、その上でごみ処理・リサイクル等について考えてもらうべきである。	大人向け	
中学校・高校での環境教育実施。(現場を見る。難しい用語も理解)	小学生だけでなく、中学生・高校生に対しても、レベルを上げた内容で環境教育を実施するべきである。	中学生・高校生向け	
生活スタイルの改革のための学習法、実践報告会。 褒めることも考える。	褒めることも大切であり、そのようなことも考慮し、生活スタイル改革を目的とした学習会・実践報告会を実施してほしい。	ライフスタイル	環境教育の有効な方法
環境・リサイクルをテーマにした市民まつりのようなイベント企画の実施	イベントを実施することによって、多くの市民に対してリサイクル等を含む環境に対する意識の向上を見込むことができる。	イベント	
イベント・セミナーの実施(ごみゼロプラン説明のため)	イベントを実施することによって、多くの市民に対してリサイクル等を含む環境に対する意識の向上を見込むことができる。	イベント	
意識改革や市民業者活動の拠点としてリサイクルプラザ等の施設が必要	リサイクルプラザ等の施設を整備し、様々な活動の拠点とすることで、活動の活性化が期待できる。	活動拠点	
市民活動の活動拠点を作る	市民活動を活性化させるための活動拠点が必要ではないか。	活動拠点	
環境学習、子ども向けコース 社会科見学会に、ごみ処理場を入れている小学校は多いが、その自治体だけの現状に終始せず、統計・比較を取り入れた分かり易い説明を、児童にする。	社会科見学会でごみ処理場を見学する際に、統計・他市町村との比較データ等を示すことにより、現状にとどまらず、将来的な方向性まで示してもらうことが望ましい。	施設見学会	
・子どもの施設見学会(学校単位で) ・大人も見学会を開催する	子供に対しては学校ごとに施設見学会を実施するが、同様に大人に対しても施設見学会を実施してほしい。	施設見学会	
自分の出したごみが、どう処理されているのかの見学会をどんどん企画する。特にきたない環境で処理作業にあたっている人がいる現状を知るべき。	自分の排出したごみの行方や、処理場の様子・作業員等の実態を理解するために、施設見学会は必要である。	施設見学会	

意見の類型化

情報提供すべき内容

リターナブル・リユースの大切さを周知するようにし、「リサイクル」免罪について考えてもらう。何でもペットボトル入り飲料を買って飲むんじゃない!という情宜。

ペットボトルについて「フタ」を取りのぞき、出切るならばボトルを洗うことでリサイクルも進むのではないかと思います。

事業者を求める役割

ガス抜きキャップ、事業者の説明

事業者等は、製品時点でごみの処理及び環境についての注意書きを更に詳しく載せるべきです。

自治体に求める役割

プラスチックごみの場合「容器包装の」の概念の説明が足りない。製品プラとの混同。変更後、しばらく施行ののち、再度、説明会をする。(疑問点が明らかになる)

変更の周知については説明会をきめ細かく。府中市のように数回(全市で?)行った程度では全く不足。多すぎることはない。出席しない人対策に一工夫必要。

分別区分の変更等は、子ども、他国の人にも理解できるように日本語・英語も必要です(他国語)

循環型社会の形成を。市民に対して説明が不足している

ごみカレンダーには分別の区分がよく分かるような丁寧な配慮が必要

市民に対する容器プラ等の説明は、1年位かけるべき。

市民の意識改革の工夫(市担当者評価システム)

情報提供の有効な方法

ホームページでの紹介

各分別所に、他の品物が放置されるケースが多々見られますので、各自治会の会員に告知すること。ただし、このことにより争いのないように。

回覧板を活用し、地域(集積所を共有する)で、正しい情報を共有する。

ごみへの意識改革について廃棄物処理場等の様子を写真等で、また、市報に載せて理解していただく必要があります。

行政 市民の情報提供は誰にどのような情報を提供するのか。市報・説明会・パンフレット・インターネットなどが考えられる。

ごみ担当者の出張説明

環境教育に必要な内容

容リプラの処理にどれだけ費用がかかっているのかを、きちんと情報を提供して考えてもらう。ペットボトル1本 円とか。

子どもはもちろん、大人自身のごみ教育は、まんが等わかりやすい雑誌にして公共の場いつでも手にとって見られるようにすべきである。

学校園を持つ学校が、この地域ではまだ多い。環境教育には恵まれている。給食の食べ残しとか菜園での生物連鎖や生ごみ堆肥化も教えて。

環境学習、大人向け。経済原理を表に出した啓発の仕方をする。(ごみ処理にかかる自治体の負担、一人あたりの負担額)

中学校・高校での環境教育実施。(現場を見る。難しい用語も理解)

環境教育の有効な方法

生活スタイルの改革のための学習法、実践報告会。褒めることも考える。

環境、リサイクルをテーマにした市民まつりのようなイベント企画の実施

イベント・セミナーの実施(ごみゼロプラン説明のため)

意識改革や市民業者活動の拠点としてリサイクルプラザ等の施設が必要

自分の出したごみが、どう処理されているのかの見学会をどんどん企画する。特にきたない環境で処理作業にあたっている人がいる現状を知るべき。

・子どもの施設見学会(学校単位で)
・大人も見学会を開催する

環境学習、子ども向けコース 社会科見学会に、ごみ処理場を入れている小学校は多いが、その自治体だけの現状に終始せず、統計・比較を取り入れた分かり易い説明を、児童にする。

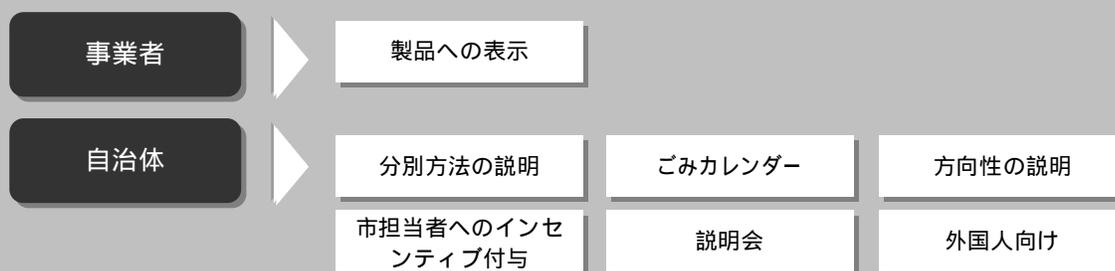
市民活動の活動拠点を作る

意見のまとめ
意見の骨子

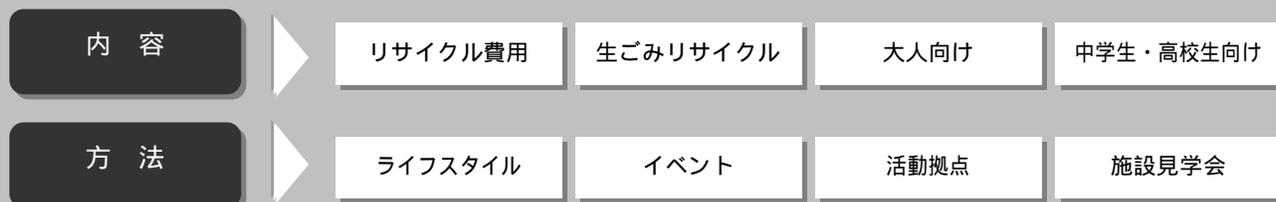
(1) 情報提供のあるべき姿



(2) 情報提供の事業者・自治体の役割



(3) 環境教育のあるべき姿



(1) 情報提供のあるべき姿

内 容

3R の優先順位について市民に周知徹底すべき。ペットボトルはリサイクルできるからいくら使用してもよい、などという概念は捨てなければならない。また、ペットボトルのリサイクルを進めるためには、市民がフタを分けること、ボトルを洗うことを覚えなければならない。

方 法

自治会や回覧版を利用して情報提供を行うことによって、同じ集積所を利用する市民が同じ情報を得ることができる。

また、市から市民に向けた情報提供の媒体として、市報・説明会・ホームページなどがあげられるが、写真等を入れた分かりやすい形とし、市報で情報提供を行うべきである。特に、ホームページでは、市民が出すごみの行方や守るべきマナー等に関する情報を提供してほしい。

さらに、ごみ担当者が各家庭を回って、分別方法やごみ減量化に向けた取組みについての説明を行うべきである。

(2) 情報提供の事業者・自治体の役割

事業者

ガス抜きキャップを使ってスプレー缶に穴を開けられることを知らなかった。そのように製品を提供する事業者が、製品に排出方法等の情報を記載するべきである。

自治体

分別区分が大きく変更する際は、市民に対して前々から説明を行うべきであり、その期間として1年は必要であり、説明会の回数ももっと増やしてほしい。また、出席できない人に対しても、何らかの対応が必要であり、施行後も説明会を開いてほしい。

市民はごみカレンダーを見て分別を行うので、わかりやすいものとなるよう配慮してほしい。特に、どれが容器包装プラスチックに該当するのかについて、市民が理解していない。ごみは市民全員が排出するものであり、英語等外国語での説明も必要である。

また、市民に対して、循環型社会形成のためにどうしていくのかの説明をもっとしてほしい。さらに、市民の意識改革を進めるためにも、市担当者評価システム等を作り、市担当者にインセンティブを与えるのが良いのではないかと。

(3) 環境教育のあるべき姿

内 容

地域内に多く存在する学校園を利用し、生態系の概念を含めた生ごみの資源としての流れを教育するのが望ましい。また、小学生だけでなく、中学生・高校生に対しても、レベルを上げた内容で環境教育を実施するべきである。

さらに、大人を対象とした教育についても、わかりやすい資料を準備し、いつでも手にとって見られる場所に置いておくべきである。また、大人に対しては、ごみ処理費用等の経済的な情報を提供し、その上でごみ処理・リサイクル等について考えてもらうべきである。特に、容リプラのリサイクル費用について市民に情報提供することで、リサイクルについて一度考えてもらうことが必要なのではないかと。

方 法

自分の排出したごみの行方や、処理場の様子・作業員等の実態を理解するために、施設見学会が必要である。社会科見学でゴミ処理場を見学する際に、統計・他市町村との比較データ等を示すことにより、現状にとどまらず、将来的な方向性まで示してもらいたい。また、子供に対しては学校ごとに施設見学会を実施するが、同様に大人に対しても施設見学会を実施してほしい。

「褒めること」も大切であるので、生活スタイル改革を目的とした学習会・実践報告会を開催したり、その他のイベントなどを実施することで、多くの市民に対してリサイクル等を含む環境に対する意識の向上を見込むことができる。

そのように、市民活動を活性化させるためにも、活動拠点が必要であり、リサイクルプラザ等の施設を整備し、様々な活動の拠点とすることで、活動の活性化が期待できる。

キーワードの抽出
 テーマ2 ライフスタイル・減量施策などについて [重点課題3]

カードの内容	コメント	キーワード	カテゴリー
マナーの悪いものはごみを収集しない、イエローカード・レッドカードを貼っておく。(でもやっぱり収集しなくてはならないか)	出し方を間違えているごみについて、最終的に収集するのは仕方ないと思うが、出した本人が間違いに気づき、改善させるために、イエローカード・レッドカード等を利用するのはどうか。	排出者への指導 収集業者への指導	排出に関する指導強化
間違えて出されたごみは収集しないことを徹底すべきで、収集業者に指導する必要がある。	出し方を間違えているごみについて、やはり収集すべきではない。収集業者にその旨を伝え、指導すべきである。	美化 美化 カラス対策	集積所の管理・改善方法
自分が出す集積場所は、自分で対策を講じるべきである。	集積所の状況改善のためには、利用する人自身が何らかの対策を行うべきである。	水切り 資源化	生ごみの減量・資源化
集積所の美化のため、集積所の担当者(自治会・町会・ボランティア)を決めて見守ってもらう。(小平ではクリーンメイトと呼んでいます)	小平市の「クリーンメイト」にならい、集積所の管理者を任命し、美化活動を推進するべきである。	排出マナー リサイクルと水質保全 環境教育・情報提供 廃棄までのコスト	情報提供・環境学習
集積所でのカラス被害は、環境対策課が市民の求めに応じ、適切なアドバイスをして欲しい。	集積所の美化のためのカラス被害については、環境対策課が市民の要求にきちんと対応してほしい。	物品税 再利用 製品価格の上乗せ 製品価格の上乗せ 廃プラスチック	望ましい社会システム
生ごみの水きり容器を、市は無料で支給し、その費用は減量でまかないできる。	水切りの多い生ごみの水切りを徹底させるために、水切り容器を配布するのはどうか。無償としても水切りに伴う生ごみの減量分によってごみ処理費用が大幅に減少し、費用の回収は可能である。	減量意識の向上 購入方法の変革 簡易包装の選択 マイバッグ マイバッグ 製品の長期使用 使い捨て生活からの脱却 再利用	市民の果たすべき役割
まだ資源化が進んでなく、大きな比重を占めている生ごみの資源化に積極的に取り組む。	量として大きな割合を占めている生ごみの資源化に取り組むことで、資源化について大きな効果があることができる。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
回覧板の活用。モラルに欠ける市民の意識は、簡単に変わらないかも知れないが、「地域の目」は多少効果的?	排出マナーの徹底のために、地域の目を感じるような回覧板を利用することで、多少はモラルの向上を図ることができるのではないかと。	3者協働 監視員制度	行政に求める役割
洗剤等も、必要以上に汚れを落とす製品は、結局、地球環境を悪化させることを、広く消費者が理解する必要がある。	リサイクル推進のための過剰な洗浄と水質保全はトレードオフの関係にあることを、市民に理解してもらわなければならない。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
生活スタイルの改革のための学習会、実践報告会。褒めることも考える。	褒めることも大切であり、そのようなことも考慮し、生活スタイル改革を目的とした学習会・実践報告会を実施してほしい。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
安い単価の製品を買っても廃棄物になった時は加工費用のほうが高く付くことを知るべき。	販売価格の安い製品でも、一度、生産から廃棄までのコストを考えると購入を考えることが必要である。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
消費税をなくし物品税を復活する。環境への負担が税の基準。	処理までの段階で環境に大きな負荷を与えるものが多く流通しているため、それらに対して税を掛けるべきである。物品税の復活を。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
リユース実践のための社会的受け皿が激減している。生協など、クラウドな社会だけでなく、広く市場的な場でリユースできる担保があるべき。	リユースを実践しようにも、その手段が少ない。誰もが参加できる形の市場的なリユースの場を増やすべきである。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
リユース商品が市場流通できるように、使い捨てやリサイクル容器(ワンウェイ)にペナルティ料金を付加する。	近年は使い捨て容器の普及が著しい。それらは安価で購入できる状態であるため、料金を上乗せすることで利用者が減るのではないかと。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
製品価格に処理費を入れて流通させるべき。ただし、上乗せ処理費分をきちんと使って処理がなされているのが追跡する必要あり。	製品価格に処理費を入れて販売するとともに、適正処理・リサイクルが行われているかを追跡することで、最適な形で資源が処理・資源化される。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
廃プラスチック・廃熱利用または化学原料工場への直接引渡し。	廃プラスチックについては、市の施設を利用した焼却および廃熱利用または、直接化学原料工場へ引き運送しての資源化が適しているのではないかと。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
すぐごみになるものを、家に持ち込まない。	長く使うものを選び、ごみの減量を意識することが必要である。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
対面販売を薦める。	対面販売によって、必要なものだけを必要なだけ、簡易包装で購入することができ、ごみの減量につながる。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
個人商店等をなるべく利用して無駄な容器は持ち帰らない。また、プラ等は、事業者さんに負担していただくようにする。	個人商店等を利用することによって簡易包装の商品を購入することが、ごみの減量につながる。また、事業者はプラ等排出容器の処理費用を負担した上で利用するべきである。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
買い物する時、エコバッグ持参すること。ビニール包装をなるべくやめるように。	エコバッグ持参をもっと推進するとともに、製品のビニール包装を減らすことで、ごみの減量につながる。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
スーパーのレジバッグにごみを入れて集積所に出している人は多い。ごみ出しにスーパーのレジバッグが使えるのはマイバッグの普及にマイナスかも。	ごみ排出用容器としてスーパーのレジバッグが多く利用されており、そのためにマイバッグ普及が進まないのではないかと。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
リユース大事ですが、洋服等も流行にとらわれず、長く大事に着用できるものを選ぶのも大事。	基本的な考え方として、長く大事に使えるものを購入する意識が必要である。そのためには流行にとらわれないようにするべきである。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
使い捨ての暮らしを見直すこと。容易に買い換えず、じっくり使えるものを持つ。	現代は、使い捨て容器を大量に利用し、いらなくなったらすぐ廃棄する、大量消費型の社会となってしまう。簡単に買い換えるのではなく、長く使えるものを持つようにするべきである。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
ビニール袋は、二度三度と使用することで、少しでもごみが減らせる。	ビニール袋は何度も利用できる耐性を持つ。そのため、繰り返し利用することで、ごみの減量につながる。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
詰替え用(トイレタリー用品等)を購入する気があっても、店で品切れになっていたりする。(容器入りが在庫あれば、店が安心していうふうなふしがある)小売店に行政側が指導することも必要だと感じる。製造者への指導も必要。繰り返し使えと謳っておきながら、すぐに容器が壊れたりする。	販売店に指導を行い、意識を高めることが必要。詰め替え製品の在庫を確保すること、すぐに壊れる容器を繰り返し使えと謳って販売しないこと、など。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
事業者には、有害物質の製品は作らないように働きかけるべきである。消費者は買わないことも大事。	有害物質を含んだ製品があるために、処理段階の施設建設等に問題が生じてくる。そのため、事業者はそのような製品を作らないようにし、消費者は買わないようにするべきである。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
外部経済の内面化の法規制の運動を薦める。適正処理困難物の指定で業者に責任を持たせる。	法規制の整備を進めるとともに、業者の持つ責任の範囲を高めるために、適性困難物の指定を行うことが必要である。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
事業者に拡大製造責任を課した民間のみで回す、回収～処理のリサイクルシステム確立	拡大製造責任の考えにのっとり、民間どうしてリサイクルシステムを確立するのが理にかなうのではないかと。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
大量消費、大量廃棄をおおるような生産活動、宣伝方法、経済活動を転換していくようにしなければ真の循環型社会にはなれない。ただし、経済の停滞を覚悟できるかが問題。	循環型社会の形成のためには、経済停滞を覚悟した上で、大量消費・廃棄社会からの脱却が必要不可欠である。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
市民・事業者・行政の3者協議会	3者協働という意味で、市民・事業者・行政の3者協議会を立ち上げ、相互協力を行うべきである。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
監視員制度による指導	監視員制度を作り、もっと事業者への指導を行うべきである。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
家庭ごみの有料化はごみ減量に於いて有効な対策だと思う。日野市の例、福岡市の話	日野市や福岡市で有料化によるごみの減量化に成功しており、有料化は有効な手段であると考えられる。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
ごみ有料化は必要である。ごみ減量に向けた効果的施策の一つである	有料化はごみの減量化に効果があり、ごみの排出量に対する適正な負担の分配が可能であるため、賛成である。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
ごみの有料化は、つましく暮らしている人にはきつい。処理困難物を多く出す人が応分負担すべき。もし有料化するならば税金の中から基本的ごみ処理費にあたる分を減らすべき。	処理困難物を出すのは事業者であり、消費者は買わざるを得ない状況にある。もし有料するのであれば、現在税金でまかなわれているごみ処理費用を還元しないと、税の二重負担になるのではないかと。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割
家庭ごみの有料化が話になっていますが、確かにごみの減量効果が出るが、出来るならば有料化は反対である。	有料化によるごみの減量化は確かに認められるものの、市民に対して費用的な負担が大きいため、できれば反対である。	詰め替え製品 製品の安全化 外部経済の内面化 民間リサイクルシステム 経済活動の変革	事業者に求める役割

意見の類型化

排出に関する指導強化

マナーの悪いものはごみを収集しない。イエローカード・レッドカードを貼っておく。(でもやっぱり収集しなくてはならないか)

間違えて出されたごみは収集しないことを徹底すべきで、収集業者に指導する必要がある。

集積所の管理・改善方法

自分が出す集積場所は、自分で対策を講じるべきである。

集積所の美化のため、集積所の担当者(自治会・町会・ボランティア)を決めて見守ってもらおう。(小平ではクリーンメイトと呼んでいます)

集積所でのカラス被害は、環境対策課が市民の求めに応じ、適切なアドバイスをして欲しい。

生ごみの減量・資源化

生ごみの水きり容器を、市は無料で支給し、その費用は減量でまかないでできる。

まだ資源化が進んでなく、大きな比重を占めている生ごみの資源化に積極的に取り組む。

情報提供・環境学習

回覧板の活用。モラルに欠ける市民の意識は、簡単に変わらないかも知れないが、「地域の目」は多少効果的?

生活スタイルの改革のための学習会、実践報告会。褒めることも考える。

洗剤等も、必要以上に汚れを落とす製品は、結局、地球環境を悪化させることを、広く消費者が理解する必要がある。

安い単価の製品を買っても廃棄物になった時は加工費用のほうが高く付くことを知るべき。

市民の果たすべき役割

ビニール袋は、二度三度と使用することで、少しでもごみが減らせる。

買い物する時、エコバッグ持参すること。ビニール包装をなるべくやめるように。

リユース大事ですが、洋服等も流行にとらわれず、長く大事に着用できるものを選ぶ目も大事。

使い捨ての暮らしを見直すこと。容易に買い換えず、じっくり使えるものを持つ。

個人商店等をなるべく利用して無駄な容器は持ち帰らない。また、プラ等は、事業者さんに負担していただくようにする。

スーパーのレジバッグにごみを入れて集積所に出入している人は多い。ごみ出しにスーパーのレジバッグが使えるのはマイバッグの普及にマイナスかも。

すぐごみになるものを、家に持ち込まない。

対面販売を薦める。

有料化に対する意見

家庭ごみの有料化はごみ減量に於いて有効な対策だと思う。日野市の例、福岡市の話。

ごみの有料化はつましく暮らしている人にはきつい。処理困難物を多く出す人が応分負担すべき。もし有料化するなら税金の中から基本のごみ処理費にあたる分を還付すべき。

家庭ごみの有料化が話になっていますが、確かにごみの減量効果が出るが、出来るならば有料化は反対である。

ごみ有料化は必要である。ごみ減量に向けた効果的施策の一つである。

事業者を求める役割

詰替え用(トイレタリー用品等)を購入する気があるにしても、店で品切れになっていたりする。(容器入り在庫あれば、店が安心して買えるようなふしがある)小売店に行政側が指導することも必要だと思う。製造者への指導も必要。繰り返し使えと謳っておきながら、すぐに容器が壊れたりする。

外部経済の内部化の法規制の運動を薦める。適正処理困難物の指定で業者に責任を持たせる。

事業者に拡大製造責任を課した民間のみで回す、回収-処理のリサイクルシステム確立

大量消費、大量廃棄をおおるような生産活動、宣伝方法、経済活動を転換していくようにしなければ真の循環型社会にはなれない。ただし、経済の停滞を覚悟できるかが問題。

事業者に、有害物質の製品は作らないように働きかけるべきである。消費者は買わないことも大事。

望ましい社会システム

消費税をなくし物品税を復活する。環境への負担が税の基準。

リユース商品が市場流通できるように、使い捨てやリサイクル容器(ワンウェイ)にペナルティ料金を付加する。

リユース実践のための社会的受け皿が激減している。生協など、クローズドな社会だけでなく、広く市場的な場でリユースできる担保があるべき。

製品価格に処理費を入れて流通させるべき。ただし、上乗せ処理費分をきちんと使って処理がなされているのが追跡する必要あり。

廃プラ焼却・廃熱利用または化学原料化工場への直接引渡し。

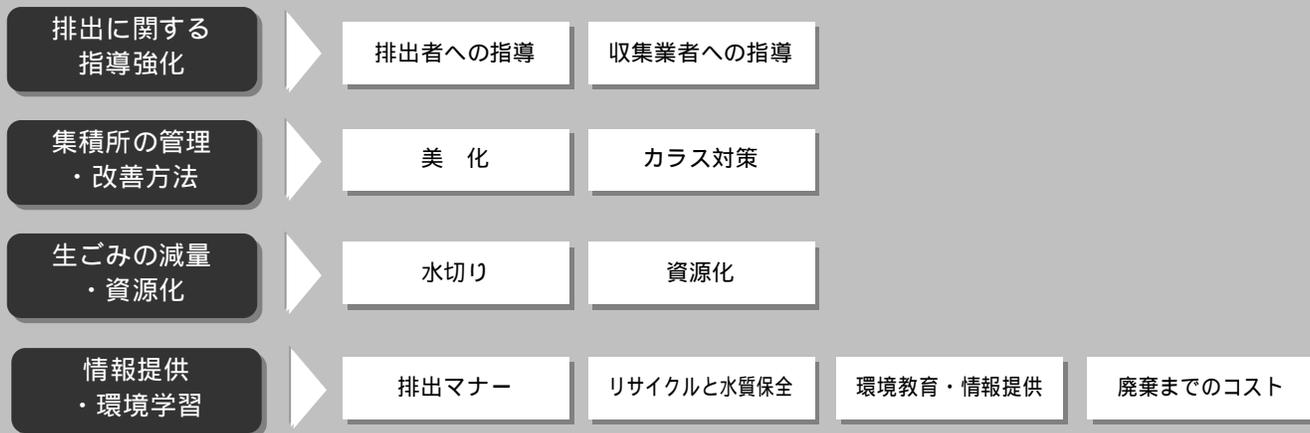
行政に求める役割

市民・事業者・行政の3者協議会

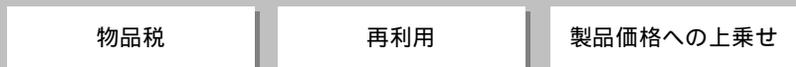
監視員制度による指導

意見のまとめ
意見の骨子

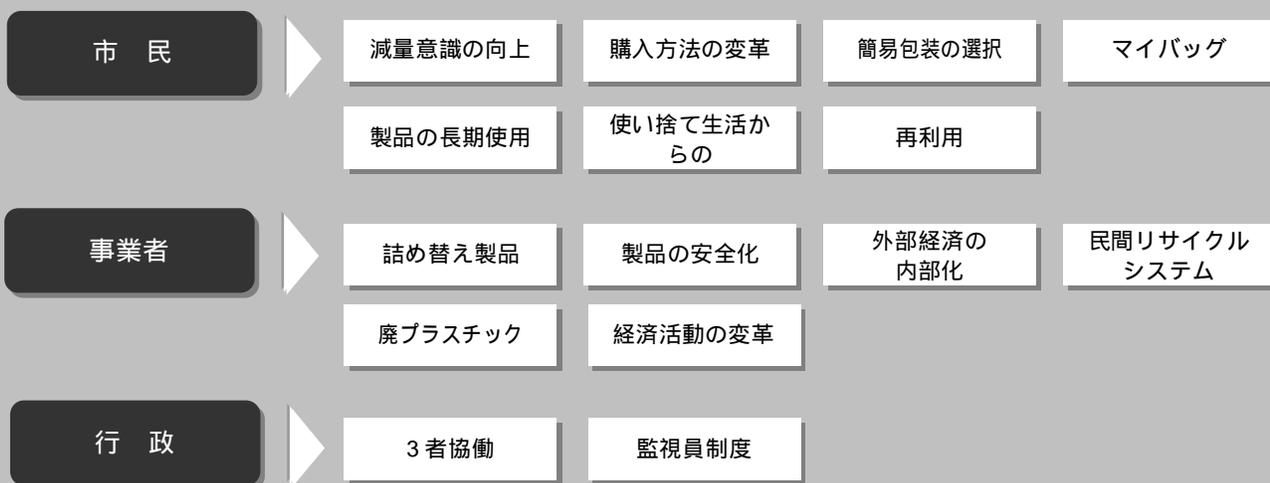
(1) 個別の対策



(2) 望ましい社会システム



(3) 各主体の役割



(4) 有料化に対する意見



(1) 個別の対策

排出に関する指導強化

出し方を間違えているごみについて、出した本人が間違いに気付き、改善させるために、イエローカード・レッドカード等を利用するのはどうか。

また、出し方を間違えているごみについて、やはり収集すべきではない。収集業者にその旨を伝え、指導すべきである。

集積所の管理・改善方法

集積所の美化のためのカラス被害については、環境対策課が市民の要求にきちんと対応してほしい。

さらに、集積所の状況改善のためには、利用する人自身が何らかの対策を行うとともに、小平市の「クリーンメイト」にならい、集積所の管理者を任命し、美化活動を推進すべきである。

生ごみの減量・資源化

水分の多い生ごみの水切りを徹底させるために、水切り容器を配布するのはどうか。無償としても水切りに伴う生ごみの減量分によってごみ処理費用が大幅に減少し、費用の回収は可能である。

また、量として大きな割合を占めている生ごみの資源化に取り組むことで、資源化について大きな効果をあげることができる。

情報提供・環境学習

排出マナーの徹底のために、「地域の目」を感じるような回覧板を利用することで、多少はモラルの向上を図ることができるのではないか。

リサイクル推進のための過剰な洗浄と水質保全是トレードオフの関係にあることを、市民に理解してもらう必要がある。

販売価格の安い製品でも、一度、生産から廃棄までのコストを考えてから購入を考えることが必要であり、生活スタイル改革を目的とした学習会・実践報告会を実施してほしい。

(2) 望ましい社会システム

処理までの段階で環境に大きな負荷を与えるものが多く流通しているため、それらに対して税を掛けるべきであり、物品税の復活が有効ではないか。

リユースを実践しようにも、その手段が少ない。誰もが参加できる形の市場的なリユースの場を増やすべきである。

近年は使い捨て容器の普及が著しい。それらは安価で購入できる状態であるため、料金を上乗せすることで利用者が減るのでないか。さらに、適正処理・リサイクルが行われているかを追跡することで、最適な形で資源が処理・資源化される。

また、廃プラのリサイクルについては、市の施設を利用した焼却および廃熱利用または、直接化学原料化工場へ引き渡して資源化することが適しているのではないか。

(3) 各主体の役割

市民

現代は、使い捨て容器を大量に利用し、いらなくなったらすぐ廃棄する、大量消費型の社会となってしまっている。基本的な考え方として、簡単に買い換えるのではなく、長く使えるものを持つようにする意識が必要であり、そのためには流行にとらわれないようにすべきである。また、個人商店等を利用し、対面販売によって、必要なものだけを必要なだけ、簡易包装の商品を購入することが、ごみの減量につながる。

また、ごみ排出用容器としてスーパーのレジバッグが多く利用されており、そのためにマイバッグ普及が進まないのではないかと。エコバック持参をもっと推進するとともに、製品のビニール包装を減らすことや、ビニール袋は何度も利用できる耐性を持つので、繰り返し利用することで、ごみの減量につながる。

事業者

循環型社会の形成のためには、経済停滞を覚悟した上で、大量消費・廃棄社会からの脱却が必要不可欠である。また、拡大製造責任の考えにのっとり、民間同士でリサイクルシステムを確立するのが理にかなっており、プラ等排出容器の処理費用を負担した上で利用すべきである。そのためにも、法規制の整備を進めるとともに、事業者の持つ責任の範囲を高めるために、適性困難物の指定を行うことが必要である。また、有害物質を含んだ製品があるために、処理段階の施設建設等に問題が生じてくるため、事業者はそのような製品を作らないようにし、消費者は買わないようにすべきである。

さらに、詰め替え製品の在庫を確保すること、すぐに壊れる容器を繰り返し使えると行って販売しないことなどについて、販売店に指導を行い、意識を高めることが必要である。

行政

3者協働という意味で、市民・事業者・行政の3者協議会を立ち上げ、相互協力を行うべきである。また、監視員制度を作り、もっと事業者への指導を行うべきである。

(4) 有料化に対する意見

賛成

日野市や福岡市で有料化によるごみの減量化に成功しており、有料化は有効な手段であるとともに、ごみの排出量に対する適正な負担の分配が可能であるため、賛成である。

反対

処理困難物を出すのは事業者であり、消費者は買わざるを得ない状況にある。もし、有料化するのであれば、現在税金でまかなわれているごみ処理費用を還元しないと、税の二重負担になる。また、有料化によるごみの減量化は確かに認められるものの、市民に対して費用的な負担が大きいため、反対である。